

香港漫画史において見逃せない重要事件として、
1990年代中葉に起きた『『色情漫画』事件』があります。

「色情漫画事件」

1994年前後に自由人出版公司・玉皇朝出版公司などが発行した薄装本コミックで、表紙は穏健なラブストーリー漫画なのに、内容にどぎついエロ表現が頻出したことから批判が集中。コミック取締強化案が出され、業界全体を揺るがす騒ぎとなった。

(当サークル刊「深く美しき香港漫画の世界」p110 より)

概要は上記のとおりです。この事件をきっかけに法律が改正され、いわゆる「18 禁」コミックへのビニール密封義務、および表紙への警告文表示義務が課されました(表示義務文全文和訳は当サークル刊「御宅族が現場に行ってきた。2016-17」p23 参照)。

規定は現在まで及び、同人イベントの頒布でも上記ルールを守らなければなりません。今につながる大きな転換点を作った出来事なのです。

事件を詳述する資料も、発行された「色情漫画」実物も現地にはほとんど残っていません。業界全体、いや香港社会全体に「漫画史の汚点」「黒歴史」として覆い隠そうとする気運があります。このままでは歴史の谷間に埋もれてしまいそうです。この機会にきちんと経緯を検証し、漫画史における位置づけと意味を考察する必要があると考えます。

たまたま筆者は当時発行された「色情漫画」を3冊ほど、詳しく検分する機会に恵まれました。どれも薄装本の体裁です。

この種のコミック本は通常の中古漫画市場ではまず流通していません。九龍サイドの某下町の路地裏、海賊版エロ本やゴミ同然のコミック古本を商う店でまれに見つかることがあります。

ではどれぐらい「どぎついエロ表現」が登場するのでしょうか？ 具体的に見てまいりましょう。

なおこの事件は「雨傘運動」から「反送中」、国家安全法に至るまでの、現代の反政府デモ活動とは何の関係もありません。事件は英領香港だった時代に起こり、1997年の中国返還までには完全に終了しています。念のため。